

三心を磨く

学校だより NO. 6

平成28年 6月15日(水) 発行

須坂市立 東 中学校

文責：奥 幸雄 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

校長講話 6月15日(水) (前期人権教育月間)

愛 ～「フィリア」と「アガペ」～

先日行われました北信陸上大会、上高井大会、ご苦労様でした。顧問の先生方からは、みなさんが一生懸命に試合に臨み、最後まで、あきらめずに戦い、その戦いぶりは、とても立派だったと報告を受けています。

女子バレーボール部、卓球部、バドミントンのみなさん、北信大会出場おめでとうございます。今までの、厳しくも工夫した練習の成果と思います。北信大会では、更に自分達の力を発揮し、県大会目指して頑張ってください。力及ばず、北信大会に駒を進めることのできなかったチームのみなさんは残念でしたが、3年生は、これからの自分の進路をしっかりと見つめ、次の目標に向かって、部活動で培った気力、体力を発揮して欲しいと思います。また、1年生、2年生は、3年生の思いを受け継ぎ、新人戦めざして練習に励んでください。

さて、6月は「前期人権教育月間」です。そこで、今日は、人権について、みなさんに考えてほしいことをお話したいと思います。今日のテーマは、「愛」です。

これからお話する内容は、私が以前にお世話になった先生が、ご自分の実体験として話してくれた内容です。ですので、これからお話しする主人公の「私」は、その先生です。それでは、聞いてください。

私は朝、犬を連れて散歩をしています。途中で大きな栗の木があります。今年も少し前のことですが、その栗の木の下には、毎朝栗のイガが落ちていて、その中から栗の実が顔を出していました。

私には、この栗のことである思い出があります。それは小学校の5年生の時のことです。山で拾ってきた山栗の実を、生のまま食べたことがありました。これがなかなか美味しいので、たくさん食べたのです。ところが、次の日の朝起きると、顔中いたる所に吹き出物ができていました。鏡に映った顔は、自分でも気持ちが悪くなるほど、醜いひどい顔でした。学校に行ってもその顔を仲間に見られるのが嫌で、その日は登校するときの足取りが、いつになく重く感じられました。

登校すると案の定、クラスの仲間は、私を遠ざけるようにして、あまり近付きませんでした。何やらひそひそ話をしている声も聞こえます。昨日まで仲良く遊んだり、話をしたりした仲間も、手の平を返したように話もしません。「そりゃあこの顔じゃ、気持ち悪いよなあ」と頭ではわかっているけど、今まで味わったことのない寂しさや、孤独感をその時感じました。その思いが最も強くなったのは、給食の時間です。その週の給食当番だった私は、汁をカップに盛りつける係で、もう一人の仲間と、二人でその仕事を始めました。その頃は自分のカップを持って係の所にもらいに行ったのですが、クラスの仲間は、一人残らず私ではないもう一人の前に並び、盛りつけを待っていたのです。この時は本当に寂しくて、切ない思いがピークに達しました。

ところが、その時、私とは反対側で盛りつけを待って並んでいた列の中から、一人の女の子が列を離れて私の前に立ったのです。そして少しためらいながら、持っていたカップを私に差し出したのです。私は、少し救われたような複雑な気持ちでそのカップを受け取ると、汁を盛りつけて渡しました。

というお話です。

私は、この話を先輩の先生から聞いたとき、「愛」について語った、ある作家の話の思い出しました。

「愛」を表すギリシャ語に『フィリア』という言葉があります（「フィリオ」と発音する解説書もあります）。「フィリア」とは、「好きである」という感情です。

友達や家族のことを好きだという気持ちです。自分の気持ちを理解してくれる人や、話が合う人と一緒にいたい、一緒に行動したいということは、日常生活でもよくあることです。それは相手に対して好きだとか、好意を持っているからです。これが「フィリア」です。ですから、特別好きではない、かかわりたくないと感じている人には、当然「フィリア」の感情は湧いてこないのです。

これに対して、もう一つ「愛」を表すギリシャ語に「アガペ」という言葉があります。「アガペ」は、「こうした方がいい」と頭で考え、判断して行う「愛」です。好き嫌いとは別です。たとえ好きでない相手や、かかわりたくない相手であっても、「こうした方がいい」または「こうすべきではない」と考えたら、それを行うのが「アガペ」の愛です。

顔中吹き出物だらけの先生に、誰も近付かない様子を見た女の子は、できれば自分も口に入れる汁を、先生ではない給食当番から盛りつけてほしいけれど、誰も行かないのはよくないと考え、勇気を出して列を離れ、一人で先生にカップを差し出したように思えるのです。

今話した先生の吹き出物にかかわる経験は、一時的なことでしたので、時期が来て普通の顔に戻ると、仲間はいつものように接してくれたということです。みなさんには、または、みなさんの周りには、自分ではどうにもならなかったり、すぐには直せなかったりすることで、悲しい思いや辛い思いをしている人はいないでしょうか。そのような場面に自分が立ち会ったら、みなさんは何を考え、どう振る舞いますか。好きとか好きでないという、感情だけで行動する自分から、「理性」で考え判断して行動できる自分へと少しずつ変わっていくこと、それが大人になるということではないでしょうか。

では、「アガペ」の「愛」を行うためには何が必要か、自分自身で考えてみてください。

6月の前期人権教育月間では、各学年で学級集団や学年集団での人間関係について考え、身近な人権侵害について自らの問題としてとらえられる学習を進めています。

人権に関わる標語も考えています。ご承知おきください。